

受験番号	
------	--

2017年度 立命館大学大学院  
スポーツ健康科学研究科【博士課程前期課程】  
入学試験問題

筆記試験 論述

試 験 時 間
11:00 ~ 12:00 (60分)

2017年2月12日 (日)

《注意事項》

1. 配布された全ての用紙の所定欄に受験番号を記入すること。
2. 解答は日本語を用い、答案用紙に横書きで記入すること。
3. 答案用紙の問題番号選択欄に、必ず○をつけること。
4. 答案用紙は、計2枚。
5. 試験終了後、配布した問題用紙等は全て回収する。

次の(1)～(4)の問題のうち、(1)・(2)から1問、(3)・(4)から1問の、計2問を選択し、それぞれ指定の答案用紙に解答しなさい。【50点×2問＝計100点】

(1) 骨格筋量と筋力の増加を目的としたレジスタンストレーニングの運動プログラム作成について、以下の用語を全て用いて論述しなさい。

<用語：トレーニング強度、トレーニング頻度>

(2) 骨粗しょう症の原因と症状および予防法について論述しなさい。

(3) 以下に示すA高校チームがB高校チームの競技レベルに近づくために、指導者としてのコーチング法について論述しなさい。サッカー、バレーボール、バスケットボールや野球など、集団球技種目を事例として論じなさい。

<チームの特徴>

A 高校チーム：各都道府県大会において、毎年1回戦もしくは2回戦で敗退する競技レベルのチーム。

B 高校チーム：各都道府県大会において、毎年ベスト4以上の競技レベルを持つ強豪チーム。

※ただし、両チームともに選手を受け入れるための奨学金制度や入試方式はない。

(4) マックス・ウェーバーが考案した合理的組織である「官僚制組織」の3つの特徴について説明しなさい。また具体的なスポーツ組織を事例に取り上げ、「官僚制の逆機能」についても、具体的に3点論述しなさい。

以上